

主催 共催
劇団 the創
太平洋核被災支援センター
後援 高知県・高知県教育委員会
高知市・高知市教育委員会

高知県立美術館 木一ル
①開場十三時三〇分 開演十四時一十六時
②開場十八時 開演十八時三〇分一二〇時三〇分
入場料 前売り 大人 一八〇〇円 学生以下 一〇〇円
当時は各二〇〇円増

二〇一四年十一月三〇日(土)

—事件の重いとひやをあはが高校生たちがいた—

The image features a vertical column of large, bold black Japanese characters on the left side. The characters read from top to bottom as '海から生きるの詩'. To the right of this text is a photograph of a coastal scene at sunset or sunrise. The sky is filled with warm, orange and yellow hues, and the horizon shows a calm sea meeting a rocky shoreline. The overall composition suggests a connection between the theme of the poem and the natural beauty of the sea.

劇団 the.1 25回高知公



慟哭の海から非核の海へ—

ビキニの水爆実験で被ばくしたのは第五福竜丸だけではなかった！

今から70年前、1954年3月1日マーシャル諸島ビキニ環礁で、なんの予告もせず、アメリカは水爆実験を行いました。そして、その後も実験は続けられたのです。

その時、ビキニの海で操業していたマグロ船やマーシャル諸島で暮らす大人も子どもたちも被ばくしました。高知のマグロ船も被ばくしました。けれどもその事実は、長い年月封印されました。

その扉を開いたのは高知県の西、幡多で生まれた幡多ゼミナールに結集する高校生と教師たちでした。何度も何度も足を運び、聞き取り調査は行われましたが、マグロ船に乗っていた元乗組員たちの口は重く、語る言葉は少ないものでした。語りたい、でも語れない、家族にさえ隠し続けてきた被ばくの事。それでもビキニの海で何があったのか、その事実を知りたい！幡多ゼミナールの高校生と教師たちの真摯な姿は、マグロ船の元乗組員のこころを動かし始めるのです。

今、声に出さなければ！！今、語らなければ！！

声なき声に懸命に耳を傾ける高校生たち。この活動は、少しづつひろがり、今は大きなうねりとなっています。

死の灰の降り注いだ海、多くの人、魚が被災しました。この演劇は、慟哭の海から非核の海をめざしていくたい、その思いをこめた演劇です。

資料提供 太平洋核爆災史
昨・演出 西森良子

資料提供
・ 演出

太平洋核爆災支援センタ
西森良子

提供

森本忠彦